

定期総会を開催

上下水道の防食に注力

JERコンクリ補改協

JERコンクリート補

改修協会は8月3日、東



京・港区のアジュール竹芝で、第18回定期総会をオンラインを併用して開催した。

審議された議案はすべて可決承認された。

冒頭、佐藤匡良会長(写

真1)は「今期も上下水道の防食工事における技術開発、販路拡大に注力していく。また、近年は長寿命化、自然災害対応などが求められるインフラメンテナンス分野全般が注目を集めており、積極的に参入を図っていき



たい。当協会設立の理念として「共存共栄」がある。会員の皆様と情報共有を図り、ともに発展していく」と挨拶した。

◆管路部会も開催
本部の総会に先立ち開催された同協会管路部会の総会では、挨拶に立った井上敬介部会長(写真2)が「昨期は、西日本支部と東日本支部が設立された。技術開発では、当協会のマンホール更生

工法の技術審査証明の変更が完了した。今期は、オンラインによる研修会開催などコロナ禍を想定した準備を進めていく。事業報告・収支決算報告、22年度事業計画・収支予算案などが審議され、すべての議案が可決承認された。

総会後は、開発を進めるマンホール更生工法での力を尽くしていきたい」と抱負を述べた。

続いて、2021年度法を解説した。